

13 取付管ライニング … 急な角度のついた取付管のライニング

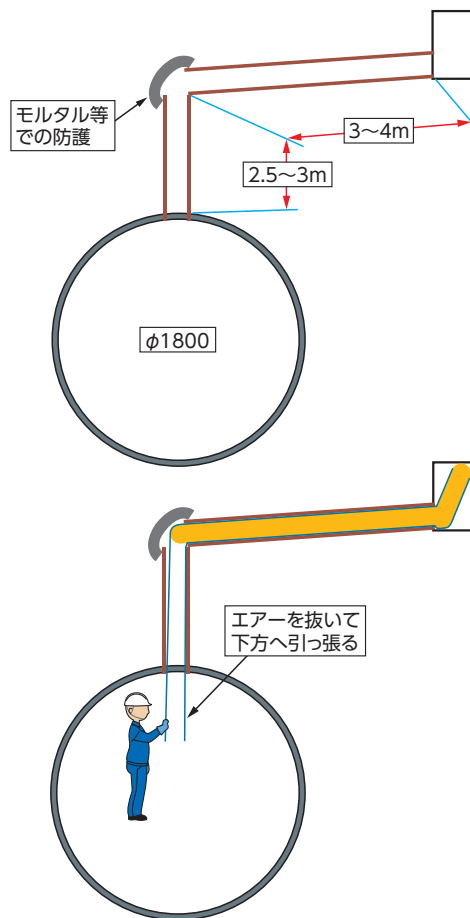
状況

本管φ1800、取付管φ200の現場において、交通量が多く、開削が不可能な箇所の現場において、浸入水や破損がある取付管の施工。同一路線には、補修が必要な箇所が数か所あり、曲がり部分には、曲管を使っておらず、突合せの接合となっていた。また、一部では、塩ビ管のエルボーを使用している箇所もあり、材料の反転、トレインの挿入に問題がある箇所であった。

対策

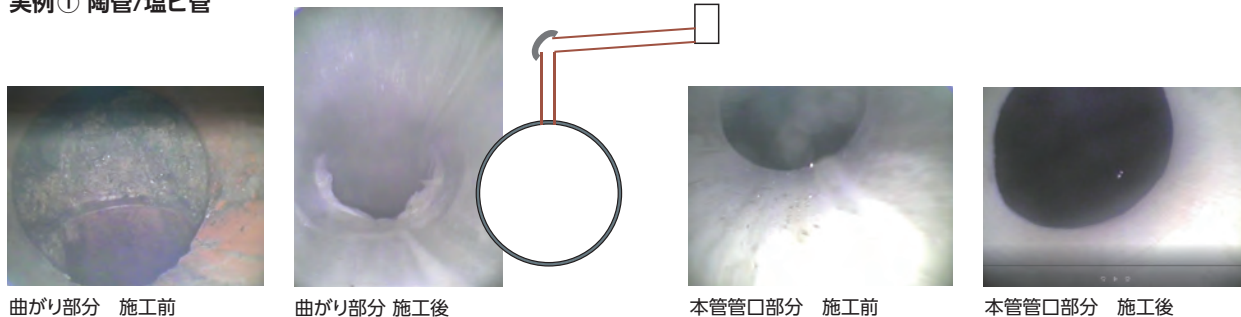
開削ができない箇所で、失敗は許されないため、入念に打合せを行なった。

- ① 本管側は人が入って作業できる大口径であるという事もあり、反転時の対策については、事前にアウターフィルムを挿入し、その中に材料の反転挿入を行なった。
曲がり部分からは反転ができない場合は、一度エアーを抜いてから、アウターフィルムを本管側に引っ張ることにより、材料の反転を確実に可能にさせた。
- ② 硬化時については、トレインが挿入はできても、曲がりの部分で引き上げきれないという可能性があったため、もしもの場合には、管きょ内での作業も可能であったので、あらかじめ材料長を長くしておき、材料のボビンを外してから、トレインを回収し、再度上部より硬化させるという手法ができるような体制をとっておいた。

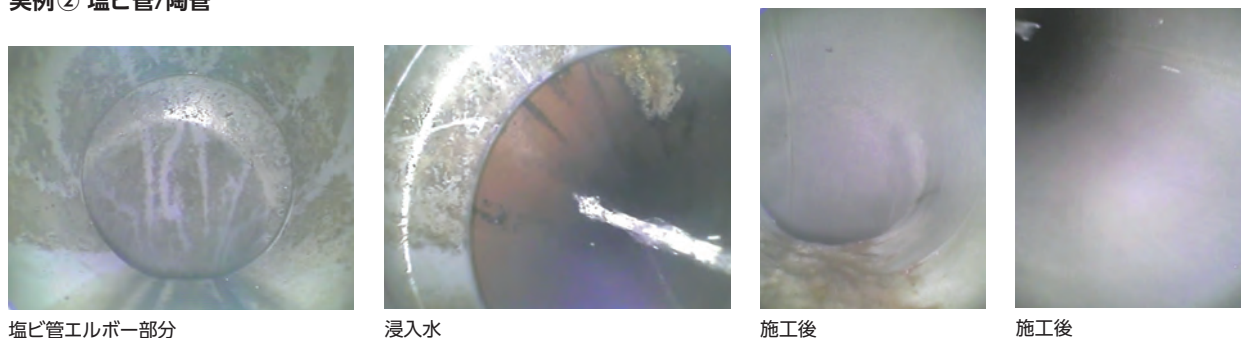


実際の施工事例

実例① 陶管/塩ビ管



実例② 塩ビ管/陶管



*実際の施工において、反転時には計画どおりに引っ張ったが、硬化時は問題なく、スムーズにトレインが通過して、なんら問題はなかった。